

ニューズレター雪氷北信越

No.73 2000年6月10日
(社)日本雪氷学会北信越支部発行

目次

<報告>

- ・富山地区講習会 (2/20, 立山町)
- ・黒龍江省雪氷問題研究会 (4/14, 長岡)
- ・第6回雪形ウォッチング (4/22-23, 伊那谷)
- ・2000年度日本雪氷学会北信越支部総会, 支部賞授賞式, 研究発表会・製品発表検討会 (5/13, 長岡)

<その他>

- ・北信越支部購読会員(団体)ならびに個人圏外購読会員の皆様へ
(「雪氷北信越」第20号の申し込みについて)

<報告>

富山地区講習会 立山の雪を体験しよう

日 時：2000年2月20日(日)14～17時

場 所：立山カルデラ砂防博物館(富山県中新川郡立山町芦峯寺)

講 師：飯田 肇

共 催：立山カルデラ砂防博物館

富山地区講習会を、立山カルデラ砂防博物館事業 立山の雪を体験しようと共催で実施した。まず室内で、ペットボトルの中に雪結晶を作る実験を行ってから、野外に出て積雪断面観測について実習した。当日の積雪は120cmで、新雪、しまり雪、ざらめ雪と、いろいろな雪質を観察することができた。

参加者は15名で、博物館事業ということもあり小中学生から一般までと幅広い年齢層の参加がみられた。

(飯田幹事 記)

< 報告 >

黒龍江省雪氷問題研究会

期 日：2000 年 4 月 14 日（土）

場 所：長岡技術科学大学 建設系会議室

本会は支部の中に黒龍江省の交通庁を想定相手機関として、雪氷問題の研究調査をする目的で設立されたものであり、2000年3月に新潟大学小林俊一教授が国立極地研究所の研究費で黒龍江省の吹雪災害調査に出かけた報告会として第1回会合が4月13日長岡技術科学大学において開催された。参加者は12名であった。

小林氏は3月17日から3月27日までの行程で哈爾濱を起点として、黒龍江省内の積雪調査を行った。同行したのは東海大学大学院生中山雅茂氏であった。行程は哈爾濱から牡丹江、七台河、鶴岡、名山、伊春、哈爾濱、齊齊哈爾、哈爾濱であった。報告の内容としては、3月のこの時期には積雪は一般に少なく特に平野部では皆無に等しいが、小興安嶺の山中には積雪が認められた。また道路事情は舗装道路が行き届いていて快適であったこと、今後積雪調査をするには1月が適当であること、さらに哈爾濱の黒龍江交通高等専科学校では日本側との交流活動を望んでいること、などが珍しいスライドと共に報告された。

（早川理事 記）

< 報告 >

見学会「第 6 回雪形ウォッチング」

期 日：2000 年 4 月 22～23 日

場 所：長野県伊那谷（中央アルプスの雪形）

参加者：49 名

2000 年 4 月 22、23 日の両日、国際雪形研究会との共催行事である第 6 回雪形ウォッチングが木曽駒ヶ岳、宝剣岳、空木岳、南駒ヶ岳などに出現する雪形を望める伊那谷（飯島町、駒ヶ根市、宮田村、伊那市、南箕輪村）で行われた。有名な「島田娘」をはじめとする芸術的な雪形を間近に体感することを期待したのであったが、直前にもたらされた降雪のため雪形が隠されてしまい、少々残念なウォッチングとなった。しかし、恒例となっている夜の「雪形シンポジウム」は、その鬱憤をはらすかのように 4 時間にも及んで素晴らしい発表と議論が相次いだ。

1995 年から始まった雪形ウオッチングは、年をおうごとに参加者が増えるとともに、より広範囲な地域からの参加が目立つようになってきている。本年の参加地域の内訳は、新潟県（12 名）、東京都（9 名）、茨城県（7 名）、神奈川県（6 名）、北海道（5 名）、大阪府（4 名）、青森県・長野県・福井県・埼玉県・愛知県・兵庫県（各 1 名）である。また、参加者 49 名のうち、雪氷学会員は約 30%の 15 名であり、他分野の研究者との知識交換の場として、あるいは研究者以外の方々への情報提供の場として、雪形ウオッチングは大きな意義を持つようになってきたと感ぜられる。

最後に、今回の雪形ウオッチングは原田裕介会員、納口恭明会員らの多大な貢献により大盛会となったことを付記する。

（河島克久幹事 記）

＜報告＞

2000 年度日本雪氷学会北信越支部総会、支部賞授賞式、 研究発表会・製品発表検討会

期 日：2000 年 5 月 13 日（土）

場 所：長岡技術科学大学講義棟

参加者：49 名

総会では遠藤八十一支部長の挨拶の後、1999 年度事業報告・会計報告案および 2000 年度事業計画・予算案が承認された。2000 年度支部役員については、2 年任期の 2 年目に当たるため、若干の変更があるもののほぼ 1999 年度の役員体制で臨む旨が報告された。その他に、2000 年 10 月に加賀市で開催される日本雪氷学会全国大会の準備状況について全国大会委員会幹事長の神田健三氏から説明された。

総会に引き続き、2000 年度支部賞授賞式が行われ、雪対策技術研究グループ（代表：杉森正義氏、研究推進者：宮本重信氏ほか）に雪氷技術賞が、石坂雅昭氏に大沼賞が、中村勉氏及び梅村晃由氏に雪氷功労賞が贈られた。

研究発表会・製品発表検討会では合計 29 件の発表があり、活発な議論がなされた。会終了後には懇親会がにぎやかに行われた。

（庶務担当 河島克久幹事 記）

<その他>

北信越支部購読会員（団体）ならびに個人圏外購読会員の皆様

「雪氷北信越」第20号の申し込みについて

北信越支部では、支部会誌「雪氷北信越」第20号を、5月13日に発刊しました。

「雪氷北信越」は、購読会員（団体）ならびに個人圏外購読会員の皆様には有料でお送りしております。つきましては、同封の申し込み要領に従ってお申し込みくださるようお願いいたします。

お問い合わせは下記の支部編集担当あてにお願いします。

〒943-0193 上越市稲田1-2-1 北陸農業試験場 気象資源研究室 横山宏太郎
電話 0255-26-3234 FAX 0255-24-8578 E-mail met@inada.affrc.go.jp

※なお、次号のニューズレターは2000年8月10日発行予定です。こちらの原稿は7月20日頃までにお送り下さい。

日本雪氷学会北信越支部ニューズレター

原稿送付・問い合わせ先：小南靖弘，横山宏太郎

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1 北陸農業試験場 水田利用部 気象資源研究室
tel.: 0255-26-3234 / Fax: 0255-24-8578 / E-Mail: met@inada.affrc.go.jp

